

John A. Ross, Editor in Chief, *International Encyclopedia of Population*, Volume I and II.
New York: The Free Press, 1982, 750 pp.

この『国際人口百科事典』は人口及び関連諸科学における一つの大きな金字塔である。このように、上下2巻で750頁の偉容、そして中項目主義によって、過去300年の人口学の歴史で問題となった主要トピックスを国際的な視野のもとで網羅したこの人口百科事典の刊行は、世界最初の壮挙である。

『国際人口百科事典』は、国連人口活動基金の財政援助を受け、2年以上の歳月をかけ、123名の秀れた学者によって寄稿されたものを編集長ロス・コロンビア大学準教授及び編集者が用語の統一、スタイルの統一に留意して完成したと言う。また企画に際して、各項目の有機的関連をできるだけ配慮し、全体として、この20年間急速に発達した人口学及び関連科学の実態部門における state of the art、すなわち各分野の学問的最前線の成果を幅広く、しかも端的に示したことは、単にこれから人口を学ぼうとする有意の学生諸君あるいは一般読者にきわめて有用な教材を提供するばかりでなく、人口を専門とする学者にとっても常に座右に備えて手引としたい書物でもある。

本書は、すでに述べたように人口学及び関連科学の実態部門における総大集である。すでに H. Shryock と J. Siegel は人口分析における方法とデータについて *The Methods and Materials of Demography* (1971) というこれ又大部の集大成を表わしているし、又国連人口部は、*The Determinants and Consequences of Population Trends* (1973) という、出生、死亡、移動、人口構造という人口過程の要素とその社会経済的要因、および社会経済的含蓄について、一つの総決算を行っているが、この『国際人口百科事典』はこれらの二つの集大成と並読すれば、その意義を増すことは疑いない。

この百科事典は、大別して11の人口に関する分野をカバーしている。それらは次のとおりである。1. 人口の主要部門(例として数理人口学)、2. 人口データの出所、人口指標、分析方法、3. 人口ダイナミクス、4. 出生力、4a. 出生力の決定要因、4b. 出生抑制、5. 結婚と離婚、6. 疾病と死亡、7. 人口分布、移動、都市化、8. 人口と資源、9. 人口に関する法律と政策、10. 世界の主要地と主要国の人口動向、11. 人口に関する世界の主要機関と活動情況。

この事典の特色は沢山あるが、すでに述べたように、人口の各分野、とくに出生、死亡、移動、人口構造、人口分布に関する主要トレンド、及びそれを説明する主要理論の適切な要約を行い、さらに人口と資源、人口と環境といった巨視的な問題の解明のほかに、世界の主要地域の人口動向の特徴、中国、ソ連といった主要国の人口動向と人口問題を簡潔適確に要約していることであろう。各地域、各主要国の第1級の専門家でこれにあっているが、日本については、公衆衛生院の村松稔博士がお家芸である簡潔かつ正確な筆致で日本の人口動向、要因、含蓄を叙述されている。また、人口政策に関する項目が非常に豊富なのが特色で、国連および国際人口関連団体の人口活動の実績を要約しているのも大いに知見を広める助けとなっている。

以上のほかに、これだけで一読に価する項目を挙げると、「避妊手段の使用」、「発展途上国における母乳授与」、「出生力低下の要因」、「世帯・家族人口学」、「国内人口移動」、「戦後の死亡率動向」、「疾病と余命」、「人口再生産力のモデル」、「人口政策」、「資源と人口」等の各章である。

ここに書かれている動向、趨勢、要因、効果は今後少くとも10年間その正当性と意義を失わないものと考えられる。一つの時代を画する出版物であろう。

(河野 稠果)